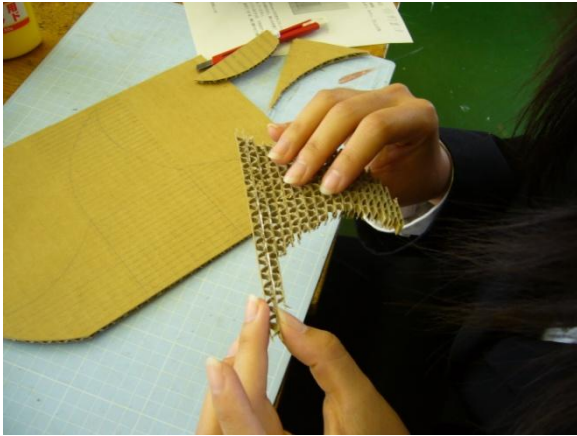


学校名 高知県立佐川高等学校	美術・工芸担当者 雨森 文	
題材名 ダンボールで椅子を作る	対象学年 3年	受講生徒数 21名
	実施科目 クラフトデザイン	授業総数 22時間
題材に使用した素材・画材 ダンボール、ボンド、カッター	作品の大きさ 5歳児が座れるサイズであること	
題材の解説とねらい 私たちの身近な素材であるダンボール。しかし、その存在感(価値感)は薄く、あまりいい印象を持たれていない。しかし、その素材は多くの特性を持っている。 ダンボールは梱包用としてだけでなく、雑貨や家具、建築資材と幅広く使われている。最近では、坂茂建築設計事務所が行った、東北関東大震災での被災地の避難場所にダンボール製の「避難用間仕切りシステム」を設置するというプロジェクトがテレビで報道された。強度があるのに軽く、加工しやすい。また、保湿性・吸音性・クッション性もあり、肌に優しく、リサイクル性に富んでいるという点において、注目されている。 本題材では、身近な素材としてのダンボールの優れた特性を活かし、椅子としての機能を考え、デザインとはどういうことなのかを体験的に理解する。制作を通して、目的や条件を考え装飾する能力、機能的で美しくデザインする能力を育てたい。		
指導略案 ダンボールの特性について学ぶ ダンボールを用いた建築物や家具・雑貨などを鑑賞し、視覚的に特性を理解する。 ダンボールの加工方法を学ぶ ダンボールを切る・折るといった基本的な作業に慣れさせるために、コースターを作らせる。 鑑賞 デザイナーが手掛けた椅子を鑑賞し、椅子の構造を理解し、制作に活かす。 表現制作 使う人の年齢、用途、体格、行動に合わせたデザインや設計を考える。(班活動) 鑑賞 作品講評会。実際に椅子に座ってみる。		
指導上配慮したこと ・ダンボールの特性について、視覚的・体験的に理解できるよう、加工の方法やデザインについて、スライドを使って説明し、実際にダンボールを加工する(コースター制作)など、素材研究や加工の練習に時間をとった。 ・学校にあるダンボールを使うため、ダンボールの大きさが限られる。そのため、条件を「5歳児が幼稚園で使うための椅子を作る」とした。		

●コースター制作風景●



●椅子 制作風景●

